

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票

【達成状況の目安】

◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合

△：年度目標の一部が達成できた場合

×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

資料 5

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和5年度の目標	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標	今後の課題と方針
検見川地区部会エリア 【人口・世帯数】 12,711人、 6,778世帯 【町内自治会数】 5町内自治会 【高齢化率】 19.0% 【地域の特徴】 検見川神社を中心とした古い町。	○	2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・地域の町内自治会や民児協と連携・協議し、見守り活動をどう進めていくか協議する。	地域にアンケートを取る方向で動くことができた。	△	・地域内の高齢者を対象にお困り事等のアンケートを取り、どう進めていくかを検討する。同時に支援員の募集を行う。	町内会・自治会の協力で、アンケートを取り見守りができるように進める。
	○	3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり	・地域での声かけをしたり、地域でのイベント、広報紙（地区部会だより）、区ボランティアセンターを活用し、ボランティアの発掘や育成に努めます。	広報紙や区ボランティアセンターを通じてボランティア募集活動に努める。	地区部会の中で検討会議を開き、組織の見直しを図り、次年度から動けるようにすることができた。	△	広報紙や区ボランティアセンターを通じてボランティア募集活動に努める。	町内会・自治会等の協力で組織の構成員の見直しを図り、よい方向に向けていく。
	○	3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり	・地域住民やこどもに地域の魅力や福祉をテーマとした研修・講座を開催します。 ・地域住民やこどもに地域福祉活動の体験の場を提供します。	・講座の内容、参加者や講師の選定等、講座開催の準備を進める。	話し合いを持ち準備を進めている。	×	・ボランティア養成講座を開催する。	日頃からの声かけと講座を開催し、社協を知ってもらい協力を仰ぐ。
花園地区部会エリア 【人口・世帯数】 21,000人、 9,996世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 23.4% 【地域の特徴】 JR新検見川駅北側に展開する古くからの住宅地と花見川区役所を中心とする新しい住宅地（高層マンション群を含む）からなる。東大総合グラウンドに隣接、東西に貫く桜並木は有名。西側に花見川、千本桜緑地がある。	○	2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	・隣近所や地域において、あいさつ・声かけによる気配り・心配りを行い、顔の見え関係づくりに努めます。	花園地区部会の伝統的な活動及び「花園おせっかい」活動を通じて、住民同士の顔の見える関係づくりに努める。 ①高齢者福祉：敬老会・ふれあい食事会 ②児童母子：子育てサロン・親子の集い（音楽会など） ③健康福祉：公園清掃・グラウンドゴルフ ④ボランティア：いきいきサロン ⑤福祉ネット：啓発ポスター・チラシの作成・見守り新鮮情報 ⑥広報：地区部会だより ⑦重点取組項目：「花園おせっかい」「避難所に関する情報交換」「イベントの再開対応」 ⑧防災訓練の実施：各避難所の避難所開設・運営訓練 ①～⑧を実施する。	・花園地区部会の伝統的な活動 敬老会（大規模敬老会）を再開 9/23（土）9：30～ 会場：花園中学校アリーナ 75歳以上 530名、総勢 787名参加 ・定期的な実施：子育てサロン・いきいきサロン・公園清掃とグラウンドゴルフ グラウンドゴルフは盛況で、参加者も増えている ・親子の集いが実施できた。春の音楽会（花園中吹奏楽部スプリングコンサート）を3月23日（土）に開催。 ・啓発活動：ポスター、チラシの作成・見守り新鮮情報・地区部会だよりの発行 ・重点項目として「花園おせっかい」の継続（チラシ・ポスター）、行事終了後のアンケートの配布・回収・情報の伝達	○	花園地区部会の伝統的な活動及び「花園おせっかい」活動を通じて、住民同士の顔の見える関係づくりに努める。 ①高齢者福祉：敬老会・ふれあい食事会 ②児童母子：子育てサロン・親子の集い（音楽会など） ③健康福祉：公園清掃・グラウンドゴルフ ④ボランティア：いきいきサロン ⑤福祉ネット：啓発ポスター・チラシの作成・見守り新鮮情報 ⑥広報：地区部会だより ⑦重点取組項目：「花園おせっかい」「避難所に関する情報交換」「イベントの再開対応」 ⑧防災訓練の実施：各避難所の避難所開設・運営訓練 ①～⑧を実施する。	・ふれあい食事サービスの再開 ・「能登半島地震」からの教訓による防災対策の見直し

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票

【達成状況の目安】

◎：年度目標以上のものが達成できた場合

○：年度目標が概ね達成できた場合

△：年度目標の一部が達成できた場合

×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

資料 5

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和5年度の目標	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標	今後の課題と方針
	○	2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	<ul style="list-style-type: none"> 災害時要支援者支援体制を構築します。そして、体制構築後は、体制の充実・強化を図り、研修会や訓練などを実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> 「花園おせっかい」の活動を通じて、地域へ災害に対する備えに関する呼びかけを行う。 避難所開設訓練に参加し、災害時における「花園おせっかい」活動の活用方法について調査・研究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> (大型自治会の例：花園文化会) 分散避難訓練の実施：事前にチラシを通して一連の訓練内容を周知 安否確認の実施：訓練開始後、安全タオルの掲示のない住宅を全て訪問して安否を確認し、その後の支援について確認を行った。 避難訓練は避難所ごとに実施している 「花園おせっかい」のPRを実施している 	△	<ul style="list-style-type: none"> 「花園おせっかい」の活動を通じて、地域へ災害に対する備えに関する呼びかけを行う。 避難所開設訓練に参加し、災害時における「花園おせっかい」活動の活用方法について調査・研究を行う。 	防災訓練の水平展開
	○	4 安全・安心なまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練を実施します。 避難所開設・運営訓練を実施します。 新型コロナウイルス等感染症に対応した避難所運営委員会マニュアルの見直しを行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 各避難所では避難所運営委員会により、防災マニュアルや防災マップを活用して、避難所訓練を行っている。また、災害時の安否確認、分散避難食料支援などは避難所ごとの条件が異なり、それぞれの自治会の判断により、多少違いがみられる。 引き続き、社協の立場、対応方針、訓練参加などについて関係機関と情報交換を密にして、対応していく。 	<ul style="list-style-type: none"> (大型自治会の例：花園文化会) 避難所運営マニュアルの改定を行った。 11月18日 安否確認訓練・防災訓練を実施 分散避難における食料等の支援を受ける方法について、お知らせ文書を作成した。 今後はこれを水平展開していきたい。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 各避難所では避難所運営委員会により、防災マニュアルや防災マップを活用して、避難所訓練を行っている。また、災害時の安否確認、分散避難食料支援などは避難所ごとの条件が異なり、それぞれの自治会の判断により、多少違いがみられる。 引き続き、社協の立場、対応方針、訓練参加などについて関係機関と情報交換を密にして、対応していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 他地区への水平展開 社協からの情報発信
朝日ヶ丘地区部会エリア	○	1 心身の健康と交流の場づくり	<ul style="list-style-type: none"> 世代の違いや障害の有無を超えた交流やイベントなどを実施します。 高齢者施設や障害者施設などでのボランティア体験や施設主催のイベントへ参画します。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ以前の活動を取り戻すべく、ふれあい食事サービス、ふれあい喫茶、ふれあいコンサート、障害者バス旅行、いきいきサロン、子育てサロン、健康体操など、交流と介護予防活動に重点を置いて実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ以前の活動を取り戻すべく、ふれあい食事サービス、ふれあいコンサート、障害者バス旅行、交流広場ふれあい、いきいきサロン、子育てサロン、健康体操など、交流と介護予防活動に重点を置いて実施してきた。下半期から、ほぼ、コロナ前の活動を復活することができ、休眠明けの活動についても従前の活動規模の水準まで回復し、予想以上の展開を見せている。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい食事サービス、ふれあい喫茶、ふれあいコンサート、障害者バス旅行、いきいきサロン、子育てサロン、健康体操など、交流と介護予防活動に重点を置いて実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 会場の都合で再開が遅れてきたふれあい喫茶を今年度中に、歌声喫茶を次年度に再開する予定で、すべての活動の復活ができる予定である。
<ul style="list-style-type: none"> 【人口・世帯数】 10,662人、 5,413世帯 【町内自治会数】 12町内自治会 【高齢化率】 38.7% 【地域の特徴】 戸建、団地、マンションの混じった住宅地。 			<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉活動にあたり、民生委員、町内自治会、あんしんケアセンター、障害者基幹相談支援センター、学校、社会福祉事業者、企業、ボランティア団体、NPO、企業など地域の多様な主体との連携強化を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> アフターコロナ、もしくはウィズコロナの状況に合わせて、従来の活動の復活、再生を図る。 あんしんケアセンターとの連携による講演会（「交流ふれあい広場」）を開催する。 消費生活センターとの連携による講演会（「交流ふれあい広場」）を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> アフターコロナ、もしくはウィズコロナの状況に合わせて、従来の活動が復活、再生している。 あんしんケアセンターとの連携による講演会（「交流ふれあい広場」）を開催した。 消費生活センターとの連携による講演会（「交流ふれあい広場」）を開催した。 地域運営委員会、中学校の学校評議会、公民館の運営懇談会が再開され、それぞれ部会長が出席した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> アフターコロナ、もしくはウィズコロナの状況に合わせて、従来の活動の復活、再生を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流広場ふれあい事業について、年3回の開催内容がややマンネリ化してきており、計画の見直しを考えたい。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票

【達成状況の目安】

◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合

△：年度目標の一部が達成できた場合

×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

資料 5

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和5年度の目標	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標	今後の課題と方針
	○	3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり	⑫ ・広報紙の発行やホームページ、SNS、集いの場、イベントなどでの地区部会活動や地域福祉情報を発信します。	これまでの広報紙発行を続けながら、SNSを通じた広報活動の方策の検討を始める。 (他地区の事例調査、広報に関する住民、関連団体の意向調査など)	これまでの広報紙発行を続けながら、SNSを通じた広報活動の方策の検討を始めたが、有効な手段が見えてこない。 ・地区部会常任理事会において、とくに人員拡充に関する方策案を各委員会に求め、それを軸に、イベントポスターへの募集コメント挿入、イベント時の呼びかけを行った。 ・地区の文化祭において、地区部会の活動を広報するためのパネル展示を行った。 ・広報に求人の特集記事を掲載した。 これらの活動によって、4名の新規参加者を得ることができた。 なお、広報紙は前年度からカラー印刷を実施し、好評を得ている。	○	広報紙発行を続けながら、広報活動をSNSで行うべく、体制を整える。	SNSの活用については、なかなか良い手段が見えず、検討を中断している。 引き続き、広報活動の拡充（読みやすい、読まれやすい広報紙、掲示の充実）を図る。 また、人員拡充のためのキャンペーンを続ける。
犢橋地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,501人、 5,515世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 30.4% 【地域の特徴】 昔からの農村地域（犢橋町）と昭和30年代に開発された新興住宅地があり、戸建て住宅の多い地域。	○	1 心身の健康と交流の場づくり	① ・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	・ふれあい3事業、散歩クラブへの参加グループの追加加入を図る。 ・いきいきプラザ等とタイアップした運動教室の開催やシニアリーダー体操を推進する。 ・子供向けイベントの開催（子ども防災教室など）を検討する。 ・落語会などの文化的なイベントを企画して、住民が気軽に集える場づくりに努める。	・散歩クラブへの参加グループが一つ増え、5グループとなった。 ・シニアリーダー体操は複数個所で開催中。 ・夏休みカレー食堂の開催（犢橋小学校にて7月～8月に計5回開催） ・千葉市防災普及公社、花見川消防署の支援の下「子ども防災教室」開催（11月23日） ・落語会開催（3月17日）	○	・5年度中に準備を進めて、「こども食堂」を再開する。 ・子どもと高齢者が交流できる場を地区内数カ所に分けてつくる。 ・「流しそーめん」や「餅つき大会」などに向けて検討、準備を行う。	・「こども防災教室」の継続実施 ・「フードパントリー」の継続実施（2ヵ月毎に） (子ども食堂は諸般の事情によりまだ再開が難しいと判断) ・「夏休みカレー食堂」の継続実施 ・「もちつき大会」の再開（「流しそーめん」は衛生管理が難しいと判断“手でつかむ”）
こてはし台中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 5,382人、 2,415世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 28.9% 【地域の特徴】 新興住宅地と旧農村	○	2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・見守り対象者の現状把握と見直しを継続して推進する。 ・各支部単位で、福祉活動推進員、自治会を含めた活動（情報交換、共同行動）を強化する。 ・昨年度から開始した見守り対象者とのコミュニケーション手段としての「見守りたより」を4回発行する。	・10月に見守りたよりを発行し、見守り対象者、町内自治会に配布・回覧した。 ・11月に対象者を含めた「ふれあい秋フェスタ～ポッチャを楽しもう～」を開催した（約90名が参加）。 ・12月に見守りたよりを発行し、見守り対象者、町内自治会に配布・回覧した。 ・み春野支部でふれあいサロン「ふらあっとみ春野」を12月から毎月開催。 ・2月に約60名参加の地区全体のふれあい食事会を実施。 ・地域にある「県立特別支援学校」主催のミニ集会や授業参観などに参加し、交流と理解を深めた。 ・見守り活動を継続実施。	○	見守り対象者の現状把握と見直しを継続して推進する。 ・各支部単位で、福祉活動推進員、自治会を含めた活動（情報交換、共同行動）を強化する。 ・見守り対象者とのコミュニケーション手段としての「見守りたより」を4回発行する。 ・生活支援のニーズを把握し、できるところから支援を実施する。（自治会との協働）	・見守り活動の継続実施と各支部のふれあいサロン活動の開催 ・ポッチャなどのイベント開催 ・広報活動の継続実施

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票

【達成状況の目安】
 ◎：年度目標以上のものが達成できた場合
 ○：年度目標が概ね達成できた場合

△：年度目標の一部が達成できた場合
 ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	重点 取組 項目	基本 方針	取組項目	令和5年度の目標	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標	今後の課題と方針	
幕張・武石地区部会エリア	○	1 心身の健康と 交流の場づくり	・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	・「ふれあいいきいきサロン」を、基本的に月2回、延べ20回開催するとともに、内容充実の検討を行う。 ・「ふれあい食事サービス」を年4回実施する。前年度まで、コロナで開催できなかったことから、今年度は、会食形式での実施はせず、配食形式での実施を計画している。	「いきいきサロン」は、予定の月2回、実施することができた。 「ふれあい食事サービス」は、年4回、配食形式で実施できた。	○	・ふれあいいきいきサロンを月2回実施する。 ・ふれあい食事サービスを年4回実施する。	「いきいきサロン」は、今後更に内容の充実を図っていく。 「ふれあい食事サービス」は、配食形式と会食形式の両方を実施する。	
【人口・世帯数】 5,503人、 2,790世帯 【町内自治会数】 3町内自治会 【高齢化率】 21.4% 【地域の特徴】 旧住民と新住民との混合地域。高齢化が進んでいる。現在区画整理が進められている。			2 支え合い、助け合いのできる 地域社会づくり	・災害時要支援者支援体制を構築します。そして、体制構築後は、体制の充実・強化を図り、研修会や訓練などを実施します。	「支え合いカード」を基に対象者一覧表を作成し、要支援者宅を訪問する。	災害時要支援者の支援体制について、千葉市から提供された名簿に基づき、対象者宅を訪問できた。	○	千葉市から新しく提供される要支援者名簿に基づき、対象者の見直しを行い、再度要支援者宅を訪問する。	町内自治会により、取り組み（支援体制）に差がある。
			2 支え合い、助け合いのできる 地域社会づくり	・認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座の開催や声かけ訓練などを実施します。	あんしんケアセンターやいきいきプラザ等の専門職と連携し、介護予防や認知症予防のための講座を、地域の人を含め開催する。	地区部会研修として、認知症専門医による予防講座を、12月にオンラインで開催し、地域住民を含め35名の参加が得られた。	○	関係機関と連携を図りながら、会員相互のステップアップのための講座を開催する。	今後、認知症に対する地域住民の意識を更に高めるための講座を考える。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票

【達成状況の目安】

◎：年度目標以上のものが達成できた場合

○：年度目標が概ね達成できた場合

△：年度目標の一部が達成できた場合

×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

資料 5

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和5年度の目標	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標	今後の課題と方針	
花見川地区部会エリア	○	1 心身の健康と交流の場づくり	・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ① ① ① ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	アフターコロナでサークル活動が活発になってきたこともあり、以下を目標に計画の推進を図る。 ・ふれあい3事業を90サークルで開催する。 ・地区部会内の敬老会の開催地域を増やす。4か所以上の開催を目標。 ・子ども会行事に声かけ・見守り訓練をコラボする。	・ふれあい3事業は、12月末現在で、78サークルが活動中。 ・敬老会は4か所参加390名（9自治会）で開催。 ・柏井地区子ども会で「みんなで歩いてピンゴ」を開催。参加121名（カード回収数）。併催で認知症の方への声かけ・見守り訓練を実施。	○	・ふれあい3事業を90サークル。 ・敬老会の開催、福祉バザーの開催、地区子ども会行事の開催。	・ふれあい3事業は、高齢化と中年層への普及が課題。 ・6年度の敬老会は合同開催を無くし、自治会、サークル単位での開催方針。 ・子ども会ウォークラリーは、より発展を目指す。	
【人口・世帯数】 10,654人、5,677世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 40.0% 【地域の特徴】 戸建住宅（昭和30年代後半より入居）、農林地帯、UR団地（分譲）、マンション群の混在地域。			2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	⑥ ⑥ ⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・見守り活動の促進…現在、鷹の台、千代の台、花見川住宅では、見守り活動が行われているが、他地区への活動拡大を推進する。 ・子ども会行事にコラボして見守り訓練を実施する（学校・PTAに協力依頼）。 ・地域ケア会議の開催（鷹の台自治会、花見川住宅自治会）。	・見守り活動の実施（鷹の台自治会 千代の台自治会 花見川住宅自治会 月1回ベース） ・子ども会行事に併せ認知症啓発活動を実施。認知症サポーター養成講座の開催。 ・地域ケア会議の開催（鷹の台自治会 花見川住宅自治会 年4回ベース）	○	・見守り活動の推進 ・子ども会行事にコラボして見守り訓練 ・地域ケア会議の開催	・見守り活動の地域拡大と被見守り人を増やす。 ・子ども会行事と認知症啓発活動の拡大充実。 ・地域ケア会議の開催
4 安全・安心なまちづくり			⑮ ⑮ ⑮ ・防災訓練を実施します。 ・避難所開設・運営訓練を実施します。 ・新型コロナウイルス等感染症に対応した避難所運営委員会マニュアルの見直しを行います。	・地区部会内の避難所運営委員会の現状把握に努める（防災対策課に依頼）。 ・防災・防犯パトロールの継続実施。	・避難所運営委員会 地区部会内構成3カ所 他地区部会と混合構成3カ所 活動状況未把握 ・防災防犯パトロール 毎月13カ所 不定期3カ所 歳末4カ所 延1171人と予想（3月末現在）。	△	・避難所運営マニュアルの更新、防犯・防災活動の実施。	・避難所運営委員会については次年度も把握に努める。 ・防犯防犯パトロールについては県社協の地域福祉フォーラムの支援で始めたが緒についてきたので地区部会として取り上げたい。	
花見川第2地区部会エリア	○	2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	⑥ ⑥ ⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・支え合い活動の継続実施。 ・広報紙等を通じて、広報啓発に努める。	・花見川団地内で実施している支え合い活動「ハンド ハンド」を継続実施した。主な活動は、家具の移動、買い物、話し相手などであった。	○	・支え合い活動の継続実施。 ・広報紙等を通じて、広報啓発に努める。	・地域全体が高齢化しているため、担い手不足が深刻化している。 ・花見川団地以外の地域への活動普及が進まない。 ・花見川団地内の支え合い活動を継続するとともに、地域全体に活動の機運が広がるよう、引き続き広報啓発活動に努める。	
3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり			⑪ ⑪ ⑪ ・地域での声かけをしたり、地域でのイベント、広報紙（地区部会だより）、区ボランティアセンターを活用し、ボランティアの発掘や育成に努めます。	・養成講座を開催し、新たな担い手の育成・確保に努める。 ・広報紙等を通じて、広報啓発に努める。	・花見川いきいきプラザ、花見川いきいきセンターの職員を講師に迎え、2月1日・19日・28日の3日間、健康体操教室を開催し、高齢者の介護予防に努めるとともに、担い手の確保、担い手のスキルアップに努めた。	○	・養成講座を開催し、新たな担い手の育成・確保に努める。 ・広報紙等を通じて、広報啓発に努める。	・担い手不足は、深刻な問題であるが、引き続き、養成講座開催や広報紙を活用した担い手の育成・確保に努める。	
3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり			⑬ ⑬ ⑬ ・地域住民やこどもに地域の魅力や福祉をテーマとした研修・講座を開催します。 ・地域住民やこどもに地域福祉活動の体験の場を提供します。	・こども達の居場所の立ち上げに向けて、引き続き関係機関との調整、他地区事例の情報収集等を行うとともに、スタッフ募集、スタッフ同士の会合等を行い、立ち上げに向けた準備を進める。	9月より開始した、こども達の居場所「花見川団地こどもカフェ」の活動を継続した。今年度は、9月、11月、12月、1月、2月、3月の年6回実施した。12月は、団地内でイベントが開催されていたこともあり、19名の参加があった。	◎	・こども達の居場所を立ち上げるとともに、内容の充実に向けて調査・研究に努める。	団地内に子どもが少なく、参加者が少ないのが課題である。	

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票

【達成状況の目安】

◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合

△：年度目標の一部が達成できた場合

×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

資料 5

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和5年度の目標	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標	今後の課題と方針
こてはし台地区部会エリア 【人口・世帯数】 5,775人、 2,879世帯 【町内自治会数】 1町内自治会 【高齢化率】 45.2% 【地域の特徴】 昭和46年に千葉県住宅供給公社が開発した戸建中心（テラスハウス25%）の住宅街。	○	1 心身の健康と交流の場づくり	・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、子ども食堂、子どもカフェなどを実施します。 ① ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	あんしんケアセンターこてはし台や障害者福祉作業所と連携し、認知症や障害のある方、またその家族の方々が気軽に集える新たな交流の場を開催することを目的に、具体的内容について関係機関と検討する。	社会福祉法人オリーブの樹の「コミュニティスペース そよ風」は、充実した。「オープンカフェ」を目指して、「脳トレ」、「歌声喫茶」、「落語会」などを行い、地域の人たちが、徐々に集うようになった。当面は、あんしんケアセンターこてはし台、ボランティアの会、地区部会が協力、スタッフとして活動している。	○	年数回の交流の場を開催する。	「オープンカフェ」の現状を地域の皆さんに広く知っていただくことが重要で、そのための積極的な広報活動が求められる。 当地区部会もこの活動に積極的に協力していく。
	○	1 心身の健康と交流の場づくり	・世代の違いや障害の有無を超えた交流やイベントなどを実施します。 ③ ・高齢者施設や障害者施設などでのボランティア体験や施設主催のイベントへ参画します。	「全世代参加型」の新規事業の設立についての検討委員会を設置し、「設立可能な新規事業」について検討する。	「新規事業設立の検討」は、地域全体の事として、他団体と共に検討する。そのキックオフとして、2月10日に福祉活動推進員20名が「全世代参加型」事業とは何か、どんな事業が考えられるか、などを検討した。有意義な意見もあり、次年度の検討委員会に提案する。	×	新規事業の具体的な実施時期・内容等について検討する。	検討委員会には、若い世代の方々に入っただくことが必須、当地区では、若い世代の方の入居者が増えており、当地区部会としても積極的な声かけを行い、検討委員会への参加をお願いする。
	○	2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	・地域福祉活動にあたり、民生委員、町内自治会、あんしんケアセンター、障害者基幹相談支援センター、学校、社会福祉事業者、企業、ボランティア団体、NPO、企業など地域の多様な主体との連携強化を図ります。 ⑩	令和4年度の「地域ケア会議」で討議された「訪問介護事業者車両問題」は一応の解決策を見出し、検討は終了した。 令和5年度は「高齢化地域の課題」を議題とし、9月頃に第1回「地域ケア会議」が開催される予定であり、引き続き「地域支え合いの街づくり」に資する会議として積極的に参加していく。	「地域ケア会議」が9月26日に開催され、当会も参加した。当日は、「高齢化地域の課題」について情報交換を行い、ごみ出し、買物などの日常のお困りごとが出された。2月に行われた会議でも本件について情報交換を実施したが、次年度も引き続き検討することとなった。	○	「地域ケア会議」で検討された課題について検討する。	多くの課題があるが、継続して取り組むことが重要である。当会は、前向きに捉え、積極的に参加していく。
	○	3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり	・広報紙の発行やホームページ、SNS、集いの場、イベントなどでの地区部会活動や地域福祉情報を発信します。 ⑫	・情報発信の迅速化のために、ホームページチーム（2～3名）を創る。 ・次世代に向けた「この街の良さ」について町内自治会の協力を得て、情報の収集・編集を行い、発信していく。	“街づくりホームページ”については、今年度は、発信内容の一部を修正したのみであった。現在の担当者1名体制を、3名体制に強化し、次年度に備えたい。	×	・公共機関（図書館・公民館）などの協力を得て、住民に役立つ情報を収集、発信する。	次年度は、発信した情報を全てチェックし、修正して発信することを早々に行う。そのうえで、新情報の発信を行うこととする。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票

【達成状況の目安】

◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合

△：年度目標の一部が達成できた場合

×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

資料 5

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和5年度の目標	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標	今後の課題と方針
天戸中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 17,020人、 7,942世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 32.2% 【地域の特徴】 農村地域と新興住宅地域。	○	1 心身の健康と交流の場づくり	・健康や介護予防をテーマとした講習会や研修会などを開催します。	各専門委員会活動の活性化を図りアフターコロナに向けた地区部会活動の再開を目指す。	地域の方々が抱える漠然とした先行きに関する不安に対して、地域でサポートを実践されている方々や行政の制度設計にご尽力されている方々を講師にお招きし、奇数月の第3土曜日にセミナーを定期開催した。セミナーの内容は、1部・2部の2部制に分け、地域の方々に行政の制度や地域の活動、問題などについて、ご理解を深めていただくテーマとした。	○	地域サロン活動の活性化と活動場所の拡大を推進する。	定期的なセミナー開催を続けることにより、少子高齢化社会を見据えた地域包括ケアシステムの構築等、行政の医療・介護施策を地区部会内で情報共有するとともに、ステップアップ・地域での理解促進を目指す。
	○	2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	・既存のサロンなど身近な場所や専門機関による相談の場を設けたり、民生委員やあんしんケアセンターなどの相談先の紹介を行います。	広報紙、ホームページ、SNS等を活用し、相談先の啓発活動を行うとともに、地区部会活動に相談機関を招き、参加の相談に対応する。	・いきいきサロンは、年間計画を立て、社協・あんしんケアセンター花見川・健康課の協力もいただき開催している。参加者からも好評で、3年目となった。 ・地域の方々のフレイル予防・健康寿命延伸にも、貢献できたのではないと思われる。	○	広報紙、ホームページ、SNS等を活用し、相談先の啓発活動を行うとともに、地区部会活動に相談機関を招き、参加の相談に対応する。	継続して今後も続けることが必要
	○	2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・民生委員等の関係機関と連携し、要支援者が利用できる制度を紹介する。 ・地区部会活動を通じて、緊急通報装置や安心電話の普及に努める。	超高齢化社会に鑑み、近所での見守りには限界があり、切れ目のない継続的な見守りには、緊急通報システムはもっとも有効な手段であると考えられる。 この普及・啓発活動も6年目になり、これまでこのシステムにより救急搬送で助かった方4名、孤独死0を継続出来ている。	○	・民生委員等の関係機関と連携し、要支援者が利用できる制度を紹介する。 ・地区部会活動を通じて、緊急通報装置や安心電話の普及に努める。	増加する高齢者に対応できる行政の制度設計が必要と考える。
	○	2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	・災害時要支援者支援体制を構築します。そして、体制構築後は、体制の充実・強化を図り、研修会や訓練などを実施します。	災害時要支援者支援体制の構築に向け、普及・啓発活動に努める。	避難行動要支援者名簿を持っている民生委員との情報交換には努めたが、普及・啓発活動には至らなかった。	×	災害時要支援者支援体制の構築に向け、普及・啓発活動に努める。	関連死が多く、世界で最も劣悪と言われる日本の避難体制、指定避難所であるが、分散避難・在宅避難に避難方法がわかりつつある現在、千葉市地域指定避難施設の増設が必要であると考えられる。
	○	2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	・地域福祉活動にあたり、民生委員、町内自治会、あんしんケアセンター、障害者基幹相談支援センター、学校、社会福祉事業者、企業、ボランティア団体、NPO、企業など地域の多様な主体との連携強化を図ります。	地区部会活動や地域の会議等を通じて、志を同じくする関係機関との連携強化に努める。	サロンやふれあい食事サービス、今年度から開始したセミナー等の地区部会活動を通じ、一部の関係機関との連携強化が図れた。	△	地区部会活動や地域の会議等を通じて、志を同じくする関係機関との連携強化に努める。	地域団体の地域福祉に対する考え方は団体によって異なる為、引き続き、志を同じくする団体との連携推進拡大を目指す。
	○	3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり	・広報紙の発行やホームページ、SNS、集いの場、イベントなどでの地区部会活動や地域福祉情報を発信します。	広報紙・メールマガジン等を活用して地域への情報提供を促進するとともに、メルマガ会員数の拡大を目指します。	今年度は、広報紙の発行には至らなかった。ホームページ・メールマガジンは、管理充実の検討に留まった。	×	広報紙・メールマガジン等を活用して地域への情報提供を促進するとともに、メルマガ会員数の拡大を目指します。	広報紙の発行を継続する。ホームページ・メールマガジンの管理充実を目指すとともに、地域で起きている事についてマガジンでの発信を目指す。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票

【達成状況の目安】

◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合

△：年度目標の一部が達成できた場合

×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

資料 5

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和5年度の目標	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標	今後の課題と方針
	○	4 安全・安心なまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を実施します。 ・避難所開設・運営訓練を実施します。 ⑮ ・新型コロナウイルス等感染症に対応した避難所運営委員会マニュアルの見直しを行います。 	避難所運営委員会への協力・支援を行う。	分散避難推進を目的とした千葉市指定避難施設の増設を近接の町内自治会と行っていたが、地区部会としての避難所運営委員会への協力実施事例はなかった。	×	避難所運営委員会への協力・支援を行う。	・避難所運営委員会の位置付け・使命を理解した上での活動の推進・組織構築が必要である。
さつきが丘・宮野木台地区部会エリア	○	1 心身の健康と交流の場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・世代の違いや障害の有無を超えた交流やイベントなどを実施します。 ③ ・高齢者施設や障害者施設などでのボランティア体験や施設主催のイベントへ参画します。 	世代の違い、障害の有無や立場を超え、地域の多くの人々が参加して、福祉に親しむ機会である「福祉まつり」を開催する。新型コロナウイルスの影響で3年間中止が続いているが、新型コロナの5類移行に伴い、4年ぶりの開催を目指す。令和5年度は、移動交番や郵便局の参画や、第2会場における野菜販売など新たな取組みも計画していきたい。	6月11日（日）に、『福祉まつり』を4年ぶりに開催することができた。 例年、福祉まつりを開催していたさつきが丘公民館の他に、貝塚公園にも会場を設け、新たな団体とも連携し、2会場での開催とし、時間もずらして実施した。	○	『福祉まつり』を年1回開催し、広い世代、障害の有無、立場を超え、地域の多くの人々が集い、福祉に親しむ機会を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度『福祉まつり』の反省のもと、6年度は、『福祉まつり』を2会場、同じ時間帯に実施し、ユニバーサルデザインの町づくりの一助にしたい。 ・若い協力者を増やす。 ・「あいさつ運動」も継続し、『福祉まつり』の中でもアピールしていく。
<ul style="list-style-type: none"> 【人口・世帯数】 10,381人、 5,335世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 35.3% 【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。 			○	2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動の実施、緊急通報システムや安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ⑥ ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ご近所のたすけあい」活動を継続実施するとともに、登録ボランティア確保のための募集、PRに努める。 ・より利用しやすい支援活動ができるようボランティア委員会で検討し、改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ご近所のたすけあい」活動を継続実施した。 ・11月に「ボランティアだより」を発行し、スーパー等の宅配状況の資料を作成した。 	○
畑地区部会エリア	○	2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ⑥ ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のゴミ出し支援活動を継続するとともに、広報活動に努める（ご近所同士で対応しているところもあるが限度がある）。また、民児協と連携を図り、高齢者実態調査等の機会にゴミ出しに困っている方のニーズの把握に努める。 ・畑町ガーデンの送迎車を利用した買物支援事業の定期運行に向けた検討を行い、試行運行を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のゴミ出し支援は、声かけは行っているが、希望者がいなく実績はなし。 ・畑町ガーデンの送迎車を利用した買物支援事業は、10月26日、12月15日、1月15日、2月16日、3月22日の年5回実施した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のゴミ出し支援活動を継続するとともに、広報活動に努める。 ・畑町ガーデンの送迎車を利用した買物支援事業の定期運行を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のゴミ出し支援については、引き続き声かけを行っていく。 ・畑町ガーデンの送迎車を利用した買物支援事業は、4月以降は定期運行を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> 【人口・世帯数】 6,159人、 2,879世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 31.8% 【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。 								